

## 床丹 1 チャシ跡の発掘調査 その1



床丹 1 チャシ跡-西側上空から- (根室市 竹田浩章氏撮影)

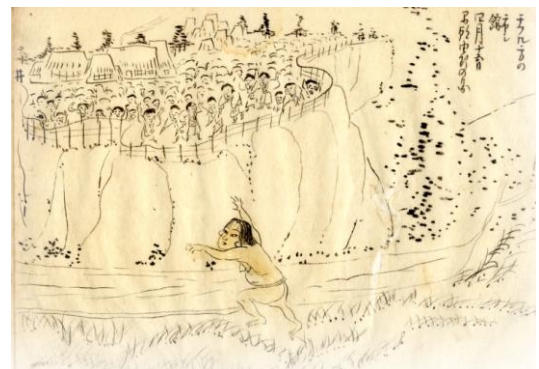
今月号から平成 26 年度に実施しました 床丹 1 チャシ跡 の発掘調査の成果について、ご紹介いたします。現在、別海町では 89 か所の埋蔵文化財包蔵地が掲載されております。時代は、明治以前のものです。古くは縄文時代～続縄文時代～オホーツク文化～擦文文化～アイヌ文化の人たちが残した生活の跡、遺跡となります。

### 謎の遺跡「チャシ」

北海道で、最後に土器が使われた<sup>さつもん</sup>擦文文化の終末については、13～14 世紀と考えられています。これ以降、近世アイヌ文化までは考古学的には空白の状況でよくわかっていません。近世アイヌ文化のことが、文献資料として記述されるのは 17～19 世紀であり、この空白を解き明かす遺跡として 16～18 世紀に盛行したと考えられるチャシがあり、数百年の謎を解く手掛かりとなっています。

チャシ (chasi) は、アイヌ語で「砦・館・柵・柵囲い」チャシコツ (chasi-kot) はチャシ跡と解釈され、北海道全域に分布しており、竪穴と共に地表面から明確にわかる遺構でありながら、その成立や性格については、必ずしも明らかになっていません。

その機能の多くを「砦」として扱われてきたようですが、近年の発掘調査例から田才雅彦は「チャシ本来の機能は国つ神に対する信仰にあり、漁場監視等の機能はその場所に於ける副次的な機能と考え



加賀家文書『蝦夷風俗図絵蝦夷語解説』より、チャシに抛る一つの物語で、描かれているのは、メナシヲ子コイの夷館とチフル夷館との抗争であり、別海町・標津町、野付半島付け根付近が舞台です。

られる。やがて、地域・部族間の紛争、あるいは和人の侵入によって、こうした聖地は心の拠り所から自らを守るべき場所へと転化し、「砦」としての機能を有すようになったものと思われる」と述べています。

北海道教育委員会に登載されているチャシ跡は 507 か所、発掘調査が実施されたのは 41 か所、自然崩壊・人為的破壊で消滅したものが、31 か所あります。根室管内には 86 か所、別海町には 7 か所あります。

### 「床丹 1 チャシ跡」自然崩壊はじまる！

床丹 1 チャシ跡は別海町の東部根室海峡側、ライトコタン川左岸の独立丘に立地します。国道 244 号線に隣接していることから、比較的目が行き届くチャシ跡でした。そうした中、別海町郷土資料館職員が床丹 1 チャシ跡付近を通行中に、チャシ跡の北東側のほぼ頂部から下部まで崩れているのを発見しました。台風、低気圧の通過により地盤が



ゆるみ崩壊したものと思われ、崩壊の状況を考えると、風雨などにより崩壊が南側に進行していくと考えられ、このまま放置すると、今後チャシ跡全体の崩壊に繋がる恐れがあると判断しました。

文化庁、北海道教育委員会の担当者に現地を確認いただき、今後の取り扱いについて協議を行った結果、保護保存対策の基礎的なデータを得ることを目的に試掘調査（平成 24 年度実施）を行うことになりました。これまで円形壕 1 条に囲まれた単郭のチャシ跡と考えられてきましたが、8 字状の壕に囲まれた複郭のチャシ跡である可能性が高まり、さらに、北郭内に畑跡も確認されました。

これらの経過を踏まえ保護保存の方策を再び関係部局と協議の結果、現存するチャシ跡の測量、今後崩壊が予想されるチャシ跡北側の発掘による記録保存、チャシ跡の基礎的な情報を得るための詳細分布調査を平成 26 年度に文化庁補助金の交付を受け着手しました。（次号につづく）

## ふるさと講座・自然系第 1 回目を実施しました。シギ・チドリ観察会！

5 月 9 日（土）野付半島にて開催しました。講師は野付中学校の藤井薫先生です。

野付半島では、ピークの日にあれば 2 千羽近い数を観察出来るとのことです。観察出来たシギ・チドリ類は、キョウジョシギ・トウネン・ハマシギ・キアシシギ・アオアシシギ・ツルシギ・ムナグロ・アカアシシギ・エリマキシギの 9 種類で干潟で餌を食べている様子をまじかで見ることが出来ました。なか



でもエリマキシギの夏羽への換羽の様子が観察出来るのは道東・道北のみで、めったに見ることが出来ないそうです。鳥たちにとってすばらしい生息環境である野付半島の自然を感じた一日になりました。

別海町郷土資料館だより No.191

発行日 平成 27 年 6 月 1 日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

穏やかな毎日が続き、晴天が多く暖かい日が多いような気がします。今月号から昨年度調査した「床丹 1 チャシ跡」の調査報告を掲載しています。発掘調査例の少ないチャシ跡、加えて本町のアイヌの人々の生活はいかなるものか？ 興味の尽きないところです。(K.I)